

バグダッド 日誌 (12月15日)

○ イラク選挙当日のイラク陸軍司令部は、……

- ・ ハンガリー陸軍大佐は、NATOの枠組みでイラク陸軍の育成支援を担当している。彼もまもなく帰国する。帰国前に是非会いたいと思っていた。どうせ金いに行くなら、イラク選挙当日の司令部の様子を見たいと思い、相手の迷惑も顧みず、挨拶ついでに司令部内の案内をお願いした。嫌な顔一つせずに、引き受けてくれた。
- ・ 今朝選挙開始直後に、IZの米国大使館の近傍にIDF(間接照準火器)攻撃が発生し、数名が負傷するという事案が発生した。その他にも、ザルカウィのテロ予告等の情報もあった。本日、イラク全土の警備を担当しているイラク陸軍司令部内は、「蜂の巣をつついたような状況」だろうと予想しつつ司令部の建物に向かった。
- ・ 大佐の執務室で、「本日のイラクの状況は、10月の国民投票の時よりも静か」と国内の状況の概要を説明して頂いた。その後、司令部内の作戦室を研修したが、将校と思われる数名と米国人二人が所在なげに座っている。彼らの様子を見ても、今日のイラク国内の状況が静かであることが伺えた。

_____ 多国軍との協同作戦とはいいつつ、_____ のは相当大変
 だろうと思う。

- ・ しかし、勤務しているイラク人達は疲れた様子もなく、殺気立った様子もない。市ヶ谷勤務時に経験した、イラク派遣開始当初の状況や、国際隊派遣、災害派遣等のオペレーションを行っていた時の状況と比べると、率直に言って「あれ?こんなもの?」という印象であった。
- ・ イラク国内の状況を説明してくれたポルトガルの大尉は、「70名程度の人数でこれだけの地域に展開するこれだけの部隊の作戦を指揮統制するのは、全くばかしてる。」と言っていた。しかし、そう感じているのは支援している側だけなのかも知れない。今日を迎えるまでの整備準備の業務で、既に疲労感漂う彼ら支援要員に対し、当のイラク軍人達はとても元気そうに見えた。
- ・ イラク陸軍の練度、中でも司令部内に勤務する将校達の能力はよくわからないが、今日の話と実際に見た司令部の雰囲気からは、未だ厳しいものがあると感じた。
- ・ イラクにとって歴史的な日といわれる今日、蜂の巣をつついた様な状況で指揮幕僚活動をするイラク人の様子を期待していただけに肩すかしを食ったような気分だった。来年、私が帰国した後、今度は彼が私の戦場を訪問することを約束して大佐と別れた。その時、今度は私の方が蜂の巣をつついたような状況になってないことを祈りたい。